
～ 巨額の費用と膨大なマンパワーを投入し プロコンサルが推進した大プロジェクトはなぜ失敗するのか？ ～ 失敗事例から学ぶ

業務改革プロジェクト成功 3つの奥義 ～ AI や DX によらない業務改革手法を、講義で学び事例で確認 ～

【受講対象者】 経営者、業務改革プロジェクトマネージャー
業務改革推進部門および経営企画部門の部課長・主任クラス
DX 推進部署および働き方改革担当部署の部課長・主任クラス

【受講のおすすめ】

あなたの会社の業務改革プロジェクトが「思ったように進まない」「メンバーが動かない」「形だけの改革活動になっている」といった兆候が出ているのなら、状況はすでに深刻化している可能性があります。

前職で講師は改革推進事務局として、プロジェクトが無残な結果に終わる過程を数回現認しました。そしてその原因が、業務改革プロジェクトの内容と推進方法、および従業員の「やらされ感」にあることに気づきました。そしてプロジェクトそのものの労働生産性向上に着目し、活動の費用対効果を最大化するソリューションを開発しました。これらのソリューションは、前職で講師自身が推進したプロジェクトならびに複数のクライアントにおいて、その有効性を確認済みです。

本セミナーでは、こうした見えているようで誰も直視してこなかった失敗の構造を、豊富な事務局経験とリアルな失敗事例をもとに解き明かします。そのうえで、従業員の主体性を引き出し、プロジェクトが自律的に回り始める成功の要諦をわかりやすくお伝えします。

「進捗を管理しているのに進まない」ではなく、「管理しなくても勝手に進む」。この仕組みを取り入れた瞬間、改革プロジェクトは驚くほど加速します。さらに、従業員の本音を把握する方法や、トップダウン活動特有の「やらされ感」発生を未然に防止する方法についても触れます。AI や DX ではできないこれら 3 つの奥義を知るのと知らないのとでは、活動の成果に天と地の開きが生じます。

業務改革は、成功すれば会社の未来を切り開きます。しかし、失敗すれば莫大なコストと時間を失い、組織には深い疲弊だけが残ります。いま、その分岐点に立っているのは、ほかでもないあなたです。プロジェクトが迷走し始めている経営者、改革推進に疲弊している活動事務局の皆さん、いまこそ「正しい進め方」を学び、組織を立て直す決断をしてください。そして、御社の未来を変える第一歩として、ぜひ本セミナーにお申し込みください。

【講師】

(株)トータルマネジメントシステム研究所 代表取締役 角川 真也（つのかわ まさや）

中堅部材メーカーにおいて数々の業務改革プロジェクトの事務局を歴任し、その失敗プロセスを現認する。そこから導き出した成功法則を取り入れ、自らが主導した間接業務の生産性向上活動は、生産性 300% 向上の大きな成果を上げ、会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム(ERP)』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ(時間・金額)を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする(「TMS 研」で HP 検索可)。『工場管理 11～3 月号』(日刊工業新聞社)誌上に『労働生産性向上による人手不足解決方法』の特別記事を寄稿。セミナー開催実績：104 回/13 年、受講者累計：1,102 名、受講者評価：平均 83.8 点

【プログラム】

1. 業務改革プロジェクトはなぜ失敗するのか？
 - 1) 業務改革プロジェクトの成否が会社の将来を左右する
 - 2) 失敗する理由は「やらされ感」
2. 失敗しないプロジェクト推進方法
 - 1) 3つの奥義
 - 2) 従業員のニーズ調査
 - 3) 管理しなくても勝手に進む進捗管理方法
 - 4) 急がば回れ!! 従業員の「やりたい」活動の並走
3. 従業員の本音を「見える化」する『従業員アンケート』
 - 1) 事例紹介
 - 2) データ精度の高め方
 - 3) 集計データの分析および活用方法
 - 4) 「従業員のやりたい活動」＝「従業員の悩みを解決する活動」
4. プロジェクト進捗管理方法
 - 1) 管理しないで管理する以上の成果を上げるには？
 - 2) 「従業員性善説」に基づく進捗管理ツール『APIOS』
 - 3) 進捗管理会議改革
5. 従業員に「やらされ感」を発生させないボトムアップ活動
 - 1) トップダウン活動とボトムアップ活動
 - 2) ボトムアップ活動が出来るのは日本だけ
 - 3) トップダウン活動とボトムアップ活動は「車の両輪」
 - 4) ボトムアップ活動事例紹介
 - 5) 私が目の当たりにした「奇跡」とは？
6. 質疑応答・個別アドバイス

【過去の受講者アンケートより】

- ・ 進捗状況が一目でわかる、進捗状況が数値化されている、の2点が弊社のプロジェクト進捗管理シートと違うことが理解できた。また、講師の「数値で進捗管理できないものはプロジェクトの名に値せず！」という一言で、一つの物差しができました。ありがとうございました。
- ・ プロジェクト成功の理屈は、非常にシンプルで解りやすかった。会議出席のペナルティ化、経営企画室の重要性、部下は上司を想像以上に見ている、については共感できた。
- ・ 本来業務の試験評価と日常管理(定常業務)、方針管理におけるプロジェクト(非定常業務)双方の進捗を管理していくためには、AIOSと一体感をもって進めるべきと感じました。
- ・ 「従業員が喜ぶプロジェクトは放っておいても進捗します」という言葉が、印象的でした。業務改革が組織に定着するか活動前から心配しがちでしたが、弊社でもよいツールやしくみは強制力が薄くても活用している実態を思い出し、気持ちが少し楽になりました。
- ・ お付き合いプロジェクトの不要さには共感できるものがあったが、実際は納得感の薄いものにも取り組む必要があり、そこへの魂の入れ方が悩みどころと感じた。
- ・ 「プロジェクトの成否を分けるものは事務局の熱意です」という講師の言葉が胸に響いた。